

令和5年度 自己評価結果報告書

社会福祉法人ゆうゆう 認定こども園 すみよし愛児園

1. 本園の教育・保育目標

当園では理念として『素朴に丁寧に純真に忍耐強く、子どもを軸として連動する絆を結び、未来社会への人づくり、国づくりの基礎(基盤)力を育む』を掲げています。また、教育保育目標として、目指す乳幼児像は次の3項目になります。

- 1、思いやりのある子ども 2、意欲のある子ども 3、生活の中での決まりの守れる子ども

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

乳幼児期にふさわしい生活が展開されるように、大人との信頼関係に支えられた生活、興味関心に基づいた直接的な経験が得られる生活、友達と十分に関わって展開する生活がなされるように配慮した指導計画を作成した。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
特色を生かした保育を計画し、実践していく。また、評価反省を行う中で、子ども達の情緒が安定し、自己発揮できるような保育を目指していく。	保育計画・実践・職員間での研修や記録を通して保育の充実を様々な形で深めるようにしてきた。保護者にも子ども達の姿や保育者の想いを伝え共通理解のもと共に子ども達の成長をみていけるようにした。
認定こども園としての専門性を保育者一人ひとりが理解し、教育保育の質の向上を図るため、園内研修を充実させるとともに外部の研修にも参加する。	園内研修を定期的実施し、日々の乳幼児の姿や保育者の関わりについて話しをする機会を多く持つようにした。法人内の研修で大学の先生にも入っていただき定期的な研修を積み重ねてきた。
日々の健康観察や疾病予防のための取組み、衛生管理等を行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。	看護師による日々の健康観察や保健指導は継続的に行っている。子ども達にとっても看護師の存在が大きく安心できる場となっている。今後も更なる徹底と計画的な取り組みを実践していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

園内研修、法人内の研修を通して、教育・保育の充実や自己研鑽に努めた。今後も自分たちの教育・保育を振り返り、さらに充実した実践ができるように努力を積み重ねていくために、園内研修や法人内での研修の充実を図っていく。園内の環境も保育リーダーを中心に整え、子ども達がやりたくなる、子ども達が自分達で気付いていけるような環境や関りを心掛けるようにしてきた。

5. 今後取り組むべき課題

保育内容・保育環境の充実	認定こども園教育・保育要領の理解、教育保育計画・内容の検討、環境構成など職員間で理解を深め、より良い教育・保育が行える体制を充実させていく。また、一人ひとりの成長発達や今の姿に合わせた細やかな配慮や関りができるよう職員間の共通理解も行っていく。
危機管理(衛生管理・安全管理)	感染症や災害等への対策に対する知識や体制を看護師も中心となり整えていく。また子どもの生活を大切に、生活習慣の見直しや衛生管理等に配慮し、安心安全な生活について考え、園として環境を整えていく。
子育て支援への取り組み	保育教諭・栄養士・看護師などそれぞれの職種を生かしながら、在園家庭はもちろん地域の子育て家庭に向けても必要な情報提供や相談などを支援センターとも協力し、安心して子育てが行なえるような地域づくりに努めていく。また、特別な支援の必要な子どもに対し、適切な指導や援助、関わりが持てるよう専門機関と協力しながら指導計画を作成し、実践していく。

6. 学校関係者の評価

継続的な研修を行う中で、職員間の連携や共通理解が深まっているように感じる。配慮が必要な子どもが多い中で、子ども達一人ひとりが尊重され、大切にされた関わりが行われているので、今後も地域の子育て支援の充実も図ってほしい。保育中も子ども達の声を中心の日々が広がっている。

令和5年度 自己評価結果報告書

社会福祉法人ゆうゆう 認定こども園 すみよし愛児園

1. 本園の教育・保育目標

当園では理念として『素朴に丁寧に純真に忍耐強く、子どもを軸として連動する絆を結び、未来社会への人づくり、国づくりの基礎(基盤)力を育む』を掲げています。また、教育保育目標として、目指す乳幼児像は次の3項目になります。

- 1、思いやりのある子ども 2、意欲のある子ども 3、生活の中での決まりの守れる子ども

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

乳幼児期にふさわしい生活が展開されるように、大人との信頼関係に支えられた生活、興味関心に基づいた直接的な経験が得られる生活、友達と十分に関わって展開する生活がなされるように配慮した指導計画を作成した。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
特色を生かした保育を計画し、実践していく。また、評価反省を行う中で、子ども達の情緒が安定し、自己発揮できるような保育を目指していく。	保育計画・実践・職員間での研修や記録を通して保育の充実を様々な形で深めるようにしてきた。保護者にも子ども達の姿や保育者の想いを伝え共通理解のもと共に子ども達の成長をみていけるようにした。
認定こども園としての専門性を保育者一人ひとりが理解し、教育保育の質の向上を図るため、園内研修を充実させるとともに外部の研修にも参加する。	園内研修を定期的実施し、日々の乳幼児の姿や保育者の関わりについて話しをする機会を多く持つようにした。法人内の研修で大学の先生にも入っていただき定期的な研修を積み重ねてきた。
日々の健康観察や疾病予防のための取組み、衛生管理等を行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。	看護師による日々の健康観察や保健指導は継続的に行っている。子ども達にとっても看護師の存在が大きく安心できる場となっている。今後も更なる徹底と計画的な取り組みを実践していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

園内研修、法人内の研修を通して、教育・保育の充実や自己研鑽に努めた。今後も自分たちの教育・保育を振り返り、さらに充実した実践ができるように努力を積み重ねていくために、園内研修や法人内での研修の充実を図っていく。園内の環境も保育リーダーを中心に整え、子ども達がやりたくなる、子ども達が自分達で気付いていけるような環境や関りを心掛けるようにしてきた。

5. 今後取り組むべき課題

保育内容・保育環境の充実	認定こども園教育・保育要領の理解、教育保育計画・内容の検討、環境構成など職員間で理解を深め、より良い教育・保育が行える体制を充実させていく。また、一人ひとりの成長発達や今の姿に合わせた細やかな配慮や関りができるよう職員間の共通理解も行っていく。
危機管理(衛生管理・安全管理)	感染症や災害等への対策に対する知識や体制を看護師も中心となり整えていく。また子どもの生活を大切に、生活習慣の見直しや衛生管理等に配慮し、安心安全な生活について考え、園として環境を整えていく。
子育て支援への取り組み	保育教諭・栄養士・看護師などそれぞれの職種を生かしながら、在園家庭はもちろん地域の子育て家庭に向けても必要な情報提供や相談などを支援センターとも協力し、安心して子育てが行なえるような地域づくりに努めていく。また、特別な支援の必要な子どもに対し、適切な指導や援助、関わりが持てるよう専門機関と協力しながら指導計画を作成し、実践していく。

6. 学校関係者の評価

こども達に対する先生達の考えが様々な角度で話し合われ、自分たちの保育を深めている。こども達の姿に対する考えも大人の視点ではなく、こども達の気持ちや発達を考えた振り返りができていると感じた。室内環境、園庭環境も整備されているが、こども達にとって本当にしたいことは何かということを常に考えながら日々の保育が行われている。

令和5年度 自己評価結果報告書

社会福祉法人ゆうゆう 認定こども園 すみよし愛児園

1. 本園の教育・保育目標

当園では理念として『素朴に丁寧に純真に忍耐強く、子どもを軸として連動する絆を結び、未来社会への人づくり、国づくりの基礎(基盤)力を育む』を掲げています。また、教育保育目標として、目指す乳幼児像は次の3項目になります。

- 1、思いやりのある子ども 2、意欲のある子ども 3、生活の中での決まりの守れる子ども

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

乳幼児期にふさわしい生活が展開されるように、大人との信頼関係に支えられた生活、興味関心に基づいた直接的な経験が得られる生活、友達と十分に関わって展開する生活がなされるように配慮した指導計画を作成した。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
特色を生かした保育を計画し、実践していく。また、評価反省を行う中で、子ども達の情緒が安定し、自己発揮できるような保育を目指していく。	保育計画・実践・職員間での研修や記録を通して保育の充実を様々な形で深めるようにしてきた。保護者にも子ども達の姿や保育者の想いを伝え共通理解のもと共に子ども達の成長をみていけるようにした。
認定こども園としての専門性を保育者一人ひとりが理解し、教育保育の質の向上を図るため、園内研修を充実させるとともに外部の研修にも参加する。	園内研修を定期的実施し、日々の乳幼児の姿や保育者の関わりについて話しをする機会を多く持つようにした。法人内の研修で大学の先生にも入っていただき定期的な研修を積み重ねてきた。
日々の健康観察や疾病予防のための取組み、衛生管理等を行い、子ども達が安全で安心な生活が送れるよう努めていく。	看護師による日々の健康観察や保健指導は継続的に行っている。子ども達にとっても看護師の存在が大きく安心できる場となっている。今後も更なる徹底と計画的な取り組みを実践していく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

園内研修、法人内の研修を通して、教育・保育の充実や自己研鑽に努めた。今後も自分たちの教育・保育を振り返り、さらに充実した実践ができるように努力を積み重ねていくために、園内研修や法人内での研修の充実を図っていく。園内の環境も保育リーダーを中心に整え、子ども達がやりたくなる、子ども達が自分達で気付いていけるような環境や関りを心掛けるようにしてきた。

5. 今後取り組むべき課題

保育内容・保育環境の充実	認定こども園教育・保育要領の理解、教育保育計画・内容の検討、環境構成など職員間で理解を深め、より良い教育・保育が行える体制を充実させていく。また、一人ひとりの成長発達や今の姿に合わせた細やかな配慮や関りができるよう職員間の共通理解も行っていく。
危機管理(衛生管理・安全管理)	感染症や災害等への対策に対する知識や体制を看護師も中心となり整えていく。また子どもの生活を大切に、生活習慣の見直しや衛生管理等に配慮し、安心安全な生活について考え、園として環境を整えていく。
子育て支援への取り組み	保育教諭・栄養士・看護師などそれぞれの職種を生かしながら、在園家庭はもちろん地域の子育て家庭に向けても必要な情報提供や相談などを支援センターとも協力し、安心して子育てが行なえるような地域づくりに努めていく。また、特別な支援の必要な子どもに対し、適切な指導や援助、関わりが持てるよう専門機関と協力しながら指導計画を作成し、実践していく。

6. 学校関係者の評価

子ども達一人ひとりに丁寧な関りであり、子ども達も楽しそうに生活している。子ども達が生活する中で必要な力が身につけられる環境があり、日々の生活の中でお互いの姿を見ることが出来る中で自然と様々な年齢での関りが持てるようになっている。園内の環境も子ども達が過ごしやすく、落ち着いた環境が作られていた。